

---

# 早期臨床実習を終えて

---

## 早期臨床実習を終えて

歯学科1年 片木源太

私たち第一学年は前期期間中、毎週金曜日の午前中に早期臨床実習として先生方の治療の見学や患者の方々の付き添いを行いました。この実習を通して私たちはこれから医療従事者として働いていくという自覚をもつことができたとおもっております。駄文ではありますが、ここにその感想を書かせていただきたいと思います。

私が最も印象に残った実習内容は、患者付き添い実習です。実習内容は患者の方々を治療室までご案内するという内容でしたが、ここで自分が印象に残った理由は二つあります。一つ目は、病院内の把握ができたという点です。私たちの使用していた部屋は歯学部棟内でしたが、実習はもちろん病院内で行われます。歯科の治療が何階で行われているか、歯学部棟へはどうやって戻るのか、初めての世界に戸惑うばかりでありましたが来年

度からはこの場で学ぶゆえ、施設の把握ができたことはよかったと思います。もうひとつは患者の方々との接し方を学べたということです。医療に携わる以上、患者の方々とのコミュニケーションは避けては通ることのできないものとなります。実際診療中の先生方はしっかりと患者の方々の目を見て、わかりやすい表現で説明をなされていました。こういった配慮をまづかで見ることができたことは、これからの自分たちのなるべき姿を見ることができたという意味で大変プラスであったと思います。

自分が述べたのは患者付き添い実習の内容のみでしたが、そのほかの実習も大変充実した内容でした。新潟大学は1年次から実習があるということで、入学前から魅力的に感じていましたが終えてみた今では期待以上のものであったと感じています。冒頭でも書きましたが、この経験はじぶんたちにとって非常に貴重なものでありました。来年から専門科目が始まりますが、初心を忘れず日々研鑽を積んで生きたいと思います。



## 歯学部 6 年間の入り口で

歯学科 1 年 小川 祐未

昨年 4 月、まだコートを手離せなかった肌寒い頃に私は新潟大学の門をくぐりました。あっという間に過ぎた濃密な 1 年間の中で、早期臨床実習は色濃く印象に残っています。入学以前は臨床実習とはある程度の専門的知識・技能を獲得した後、高学年で行われるものだと想像していました。ですが今では、まっさらな状態で臨むこの臨床実習をなぜ全国的に実施していないのか不思議に思います。それは、今しかない学びが数えきれないほどあるからです。

まず治療見学で驚いたのは、患者の方の協力的な姿勢です。歯科医師が口を開けるよう患者の方に伝えるとすぐに応じて下さり、慣れている方は歯科医師の手が口元にくると口を開けて下さいました。この見学を通して、治療は医療者の手だけでなく患者の方と信頼関係を築き、一緒に進めていくものであると気づかされました。

一方で、病院内の設備にも目が留まりました。特に注目したのは引き出しと照明です。引き出しが静音設計で作られていて、勢いよく閉めても最後の数センチはゆっくりと閉まります。また、照明は患者の方の真上にはならない位置にあります。これは身近な先生等にお聞きしましたが、偶然か計算されたものかはわかりませんでした。治療中の患者の方ができるだけ不快な思いをされないように配慮された空間に、感銘を受けました。最近は臨床や研究だけでなく開発や設計にも歯科医師は役立つのではないかと考えています。

この先歯学部や社会に出てからも道のりは長く、喜びにも苦しみにもたくさん出会うでしょう。ですがこの早期臨床実習でしか得られない発見や思いはかけがえのないものです。今後も自分の可能性を最大限に引き出せるよう、勉強はもちろん弓道部、軽音部、五十嵐キャンパスでのダブルホーム活動でも尽力します。ここで楽しく学んでいけることを、同期の仲間たちや先輩、先生方、また家族にも感謝しています。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

